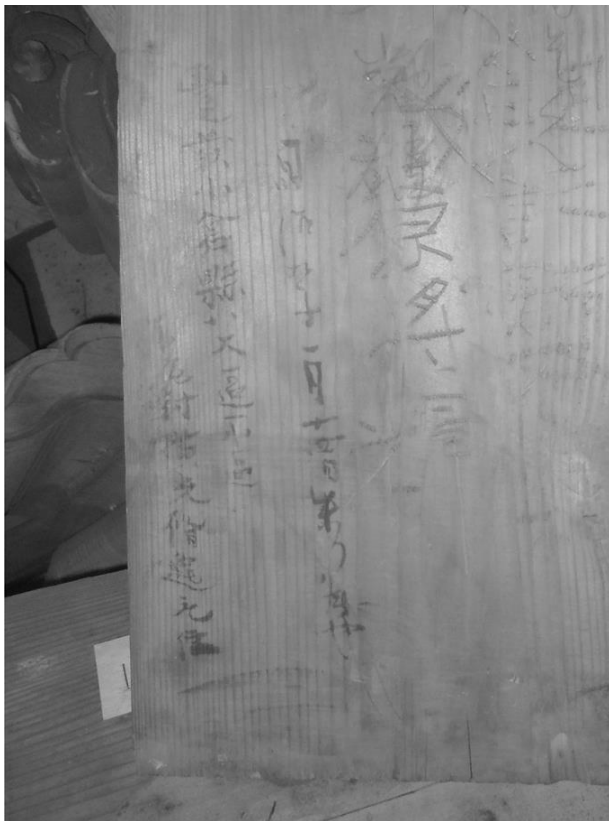


修理工事こぼれ話⑧ 阿蘇神社に参拝した人々

今回も、前回や前々回に引き続き、楼門の部材に書かれた墨書について紹介します。今までは造営時に書かれたもの、つまり江戸時代の墨書でしたが、今回は明治・大正時代の墨書です。

阿蘇神社の楼門は2階建てですが、近年は信仰への配慮により2階には登れないようになっていました。しかし、明治・大正時代の頃は参拝者も自由に入れたようで、2階の内部には当時の参拝者が残した自分の名前や住所の墨書が数多く残されています。

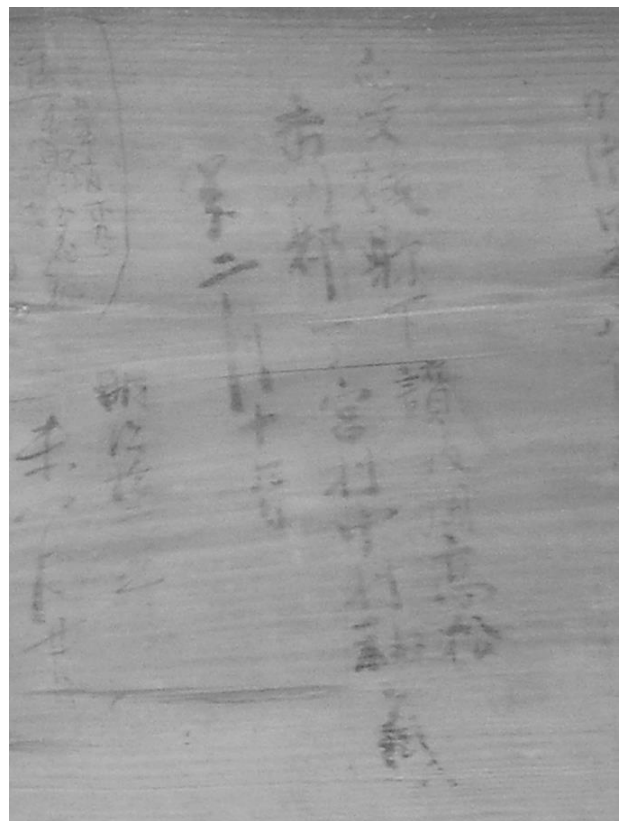
今回は、その中の一部を紹介します。



上層壁板

住所の表記が特徴的です。小倉県は明治4年(1871)から明治9年(1876)まで存在した県です。「八大區一小區」という表記は、明治5年(1871)から明治11年(1878)まで施行されていた大区小区制という制度におけるものです。

豊前小倉縣八大區一小區
 村光脩 元
 明治 年 月 日



上層内法貫

この方は、現在の香川県高松市から参拝にきていますが、この地域が愛媛県であった時に参拝したようです。香川郡が愛媛県であったのは、明治11年(1878)から明治21年(1888)までのことです。

愛媛縣下讚岐國高松
 香川郡一宮村中村袖蔵
 二月十四日



上層壁板

明治20年(1887)ですと、現在の鹿児島本線はまだ開通しないので、徒歩で山鹿郡から参拝したのだでしょう。

熊本縣山鹿郡
(多)
保野田村
田中寅熊
明治廿年四月十五日
同行一人



上層壁板

豊福村は現在の宇城市です。

□□□下益城郡豊福村
大字西下郷
嶋田次八 松本直喜
上村直八 大嶋永次
明治廿九年
□四月 参拝



上層壁板

杉上村は現在の熊本市南区です。

明治廿八年
□四月十八日
下益城郡杉上村
大字□
同行三人
木村庄太良
福田造作
上田□□



上層内法貫

清水村は現在の熊本市北区です。

熊本縣飽託郡
清水村字山室
明治卅一年五月九日参拝
清水敬太郎
藪田軍太
全團蔵
緒方甚蔵
同行四人



上層壁板

白糸村は現在の山都町です。

同行八人	上益城郡白糸村
	明治三十六年
	八月四日
人名	松川□ 二十才
	全 文克 二十一才
	東久 □ 十四才
	□ フジ 二十六才
	松川次平 十八才
	全 ツ子 二十四才
	松野大五郎 三十四才
	全 スズ 十六才
	宮川様方へ



上層指母屋

大牟田町が存在したのは明治 22 年(1889)から大正 6 年(1917)であり、亥年に参拝したようなので、参拝した年は明治 32 年(1899)か明治 44 年(1911)であると思われます。

福岡縣三池郡	大牟田町
	坂井龜藏
	同 スエ
亥四月吉日参拝記念	



上層化粧隅木

現在の豊肥本線熊本駅一宮地駅間は、大正 7 年(1918)に開業しているため、この 2 人は鉄道を使用して参拝したのかもしれませんが。

大正九年	九月五日	午後五時
熊本縣熊本市	辛嶋町	
製□商	中野卯吉	廿一才
	同坪井魚屋町	
	川住雪枝	十七才

参拝者の墨書を読むと、熊本県内はもちろん九州の他の県や、四国といった他の地方からも参拝に訪れる方々がいたことがわかります。また、当時の行政制度などもその墨書からうかがい知ることができます。造営時の江戸時代のものでなくても、文化財に指定される前に書かれた墨書は貴重な歴史資料なのです（現在は落書きをすると文化財保護法違反で罰せられます）。

(石田 陽是)